

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第3週 (1/16-1/22) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		3週	2週	1週	52週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	16
	眼科	5	5	3	3
	インフルエンザ*	28	28	28	23
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉県					千葉県 1/9-1/15 2週
		注意報	1/16-1/22	1/9-1/15	1/2-1/8	12/26-1/1	
			3週	2週	1週	52週	
小児科	RSウイルス感染症		1	2	0	7	16
	咽頭結膜熱		1	1	1	2	10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	39	22	11	30	276
	感染性胃腸炎		113	127	81	145	795
	水痘		7	4	7	5	52
	手足口病		0	2	2	2	13
	伝染性紅斑		1	1	1	1	10
	突発性発しん		6	7	4	7	47
	百日咳		0	0	0	1	1
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎		6	10	8	3	36
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★★◎	878	452	211	102	4,309
眼科	急性出血性結膜炎		0	1	0	0	2
	流行性角結膜炎		1	4	5	0	23
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		2	2	0	1	5
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	臨床診断	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	60歳代	菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇	梅毒	女性	50歳代	血清抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査等	-	-	-	-
細菌性赤痢	男性	20歳代	病原体の検出	-	-	-	-

・第3週は、結核4件(10)、細菌性赤痢1件(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(2)、梅毒2件(2)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第3週のコメント

<インフルエンザ> 前週より更に増加し31.36となり、流行発生警報開始基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると最多。

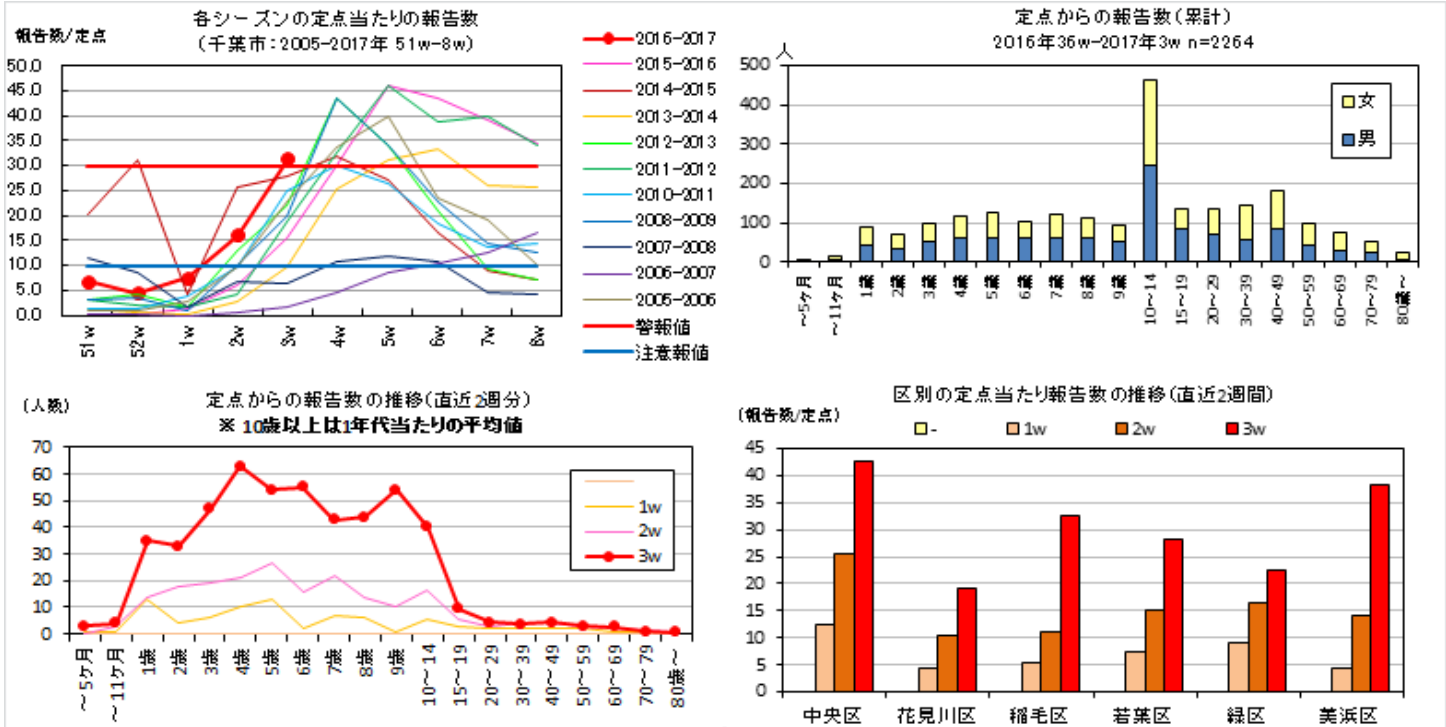
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.17となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均並み。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの2017年第2週は、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、愛知県、岐阜県、埼玉県、の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2017年第3週は、前週より増加し31.36となり流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、中央区(42.5/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは5歳で最も多く発生報告がありました。この他、美浜区(38.2/定点)及び稲毛区(32.5/定点)で流行発生警報開始基準値を上回っており、他は流行発生注意報基準値を上回ったままとなっています。今シーズンである2016年第36週から2017年第3週までの累積報告数(n=2264)によると、性別では男性が50.2%(1137名)、女性が49.8%(1127名)で、一年代当たりの年齢階級別では5歳(5.7%:128名)、7歳(5.5%:123名)、4歳(5.1%:115名)の順に多くっており、20歳未満は全体の68.4%、10歳未満は全体の41.8%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの2017年第2週は過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、鳥取県、山形県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第3週は、前週より増加し2.17となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、緑区(4.25/定点)で最多で、同区の6歳及び10歳代前半で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第3週までの累積報告数(n=620)によると、性別は男性が51.8%(321名)、女性が48.2%(299名)で、年齢階級別では10歳代前半(14.7%:91名)、6歳(11.8%:73名)、5歳(11.3%:70名)の順に多くなっています。

